

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

# 魔法の大川の滝

神山小 六年 有馬 沙南

もう少しだね。  
と友達が言う。私はずいいて歩みを進めていく。足がジンジン。はあもう限界。先頭の子とは何百米メートルはなれてるのかな。  
「急ごう。」  
友達とダツシユで走る。今は島回りの第一回目。次の休けいまで前と追いつかなくちや。やうと休けい所に着いたらみんな休んでいた。お母さんに作ってもらったおにぎりを一つ食べて先頭の人といっしょに出発する。おにぎりを食べて休憩したからもう元気。大川の滝へと元気よく進む。  
もうすぐ大川の滝に着きそうだ。ズンズンズンズンと、進んで行くと辺りがフワツと暗くなつた。あれ今日は七月なのに三十度越えの日なのに。上を見上げると木々達の木の葉でかげになつている。少しすすしくて気持ちが良い。でも、足はもう限界を越えている。

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

「着いたよ。」  
と友達が言った。  
あ、と目を上げて前を見る。昨日もおと  
いも雨の日だった。青空の下、いつもにもま  
してまして水流の多い滝は迫力があききれい。  
ふいに、かなしほりが解けたように足が軽  
くなつた。ピョピョンピョンともものすぐく大きい  
岩を登つてく。一番前の岩に立つと「ブウ」  
とマイナスイオンが体じやうに当たる。一瞬  
でズブムシになる。急に目の前の滝がいじむ。  
ああ、ついたんだ。今まで何度もこの滝に來  
たけどこんなに感動したのは初めてだ。歩い  
ていると中ほ、なんで歩いてるんだらう。や  
らなきや良かった。て、思った。でも、そん  
な事を忘れてしまう。岩は、ふ通ならめちや  
くちや熱いと思うけど滝のマイナスイオンで  
つるつる。でも日光が当たっているからビキョ  
ビキョでもない。  
周りを見回すとみんな笑顔。私も笑顔。下  
を見ると、青くて緑の滝っぱ。上を見ると大

No. 2

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

3  
No. 3  
きな滝。そのはくかにおしつぶされそう。い  
つも、なんで両親は屋久島に来たんだらう、  
と思うときがある。そりや、自然もきれいで  
友達もいい子ばかりだけど、いつも山には  
登らないし、友達だつてあつちでも作れるの  
に。でもこのとき、「屋久島に来て良かった  
なあ」と思った。  
「ご飯だよ。」  
と、大人が言った。  
私は岩の下の方にかけて下りた。ピョピョ  
岩を飛び下りながら走るとなんかサルになっ  
た気持ち。  
岩の下でヒンヤリなそうめんと残しておい  
たおにぎりを食べる。いつももおいしいけど  
今は格別な程おいしい。  
二ヶ月後に家族で車に乗って屋久島一周を  
した。その時見た大川の滝もすごいけどア  
れと思つた。もしかしてあの時すごいきつくて  
つらかつたからかも。あの滝はうらさやつら  
さを飛ばしてくれる魔法の滝だつたのかも。

(不許複製)

3 詩はどの行も三はんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終つたら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

